広島の過去と現在から考える「平和の尊さ」

半田市立半田中学校　２年　松本　惟吹

１．戦争の悲惨さを最も感じたもの

平和記念資料館の展示室で、犠牲になった子どもたちの衣服や、焼けて変形した三輪車などの遺品を近くで見た時です。それまでいつも通りの日常を過ごしていた人々の命が、たった一発の原子爆弾によって一瞬にして奪われてしまったという事実に、深い悲しみを覚えました。壁に展示された被爆当時の写真や、黒い雨の跡が残る資料からは、当時の人々が受けた苦しみや恐怖が静かに伝わってきます。建物や街といった形あるものだけでなく、人々の幸せな生活や未来までをも奪い去ってしまう戦争の恐ろしさを、改めて強く実感しました。

２．最も復旧・復興を感じたもの

私は平和記念資料館へ行き、当時の体験や平和への思いを後世に語り継いでくださる新井俊一郎さんの講話をいただきました。そのお話の中で印象に残ったことがあります。それは、被爆した土地は「向こう 75 年間は草木も生えない」と言われていたことです。人類史上初の原子爆弾による破壊であり、当時は放射能汚染によって長期間生物が生存できないと考えられていたからです。しかし、現在、広島の街は緑豊かで美しい平和記念公園へと見事に生まれ変わっています。がれきの中から立ち上がり、焼け野原から美しい街へと作り直した当時の市民の方々の強い意志と努力に心を打たれ、広島の復興を感じました。

３．心に残った平和への祈り

世界中から絶えず色鮮やかな千羽鶴が届き、今もたくさんの祈りが捧げられている「原爆の子の像」が深く心に残りました。平和への願いは決して過去のものではなく、現在、私たちが向き合うべき強い誓いなのだと気づかされました。言葉や国籍、年齢が違っても、慰霊碑の前で静かに頭を下げて手を合わせる多くの人々の姿を見て、世界中の誰もが共通してもっている「平和でありたい」という願いの重さを強く感じました。

４．未来へつなぐ平和への誓い

原爆を受けた広島の地を実際に訪れて学んだ、戦争の悲惨さと平和の尊さを、私たちは決して風化させることなく、次の世代や周りの人々へ語り継いでいく責任があります。戦争は遠い昔の出来事ではなく、現代にもつながる大きな問題であり、今もなお戦争が続いています。だからこそ、日々の生活の中で、身近な人を思いやり、世界の現状に少しでも関心を持つことが大切だと思いました。小さな争いを起こさないように一人ひとりが心がけることこそが、世界の平和をつくる確かな一歩になると信じて、これからの生活を送っていきます。